

丸亀市まちなか再生未来ビジョン策定公募型プロポーザルへの質問に対する回答

質 問	回 答
<p>1 「まるがめまちなか再生エリアプラットフォーム」の構成メンバーをご教示ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業 3 社（業種：エリアプロモーション、エリアマネジメント、建材事業）</li> <li>・大学教授 1 名</li> <li>・市営施設指定管理者 1 名（市民交流活動施設）</li> <li>・市職員 1 名</li> </ul> <p>計 6 名</p>
<p>2 「まるがめまちなか再生エリアプラットフォーム」の過年度の活動記録や議論の議事録などのご提供をお願いします。</p>	<p>当該エリアプラットフォームについては令和 6 年 4 月の設立のため、過年度はエリアプラットフォームとしての活動はありません。</p> <p>なお、準備会等の活動記録については下記ホームページをご参照ください。  <a href="https://marugame-machinaka.com">https://marugame-machinaka.com</a></p>
<p>3 「丸亀市官民連携まちなか再生推進事業」として過年度までの検討状況が分かる資料のご提供をお願いします。</p>	<p>別添資料 1 参照。</p>
<p>4 別に実施される予定の社会実験イベントの時期・場所や内容をご教示ください。</p>	<p>丸亀港付近に位置するみなと公園と丸亀城北側に位置する大手町 4 街区内の 2 箇所で同時にイベントを行うことにより、港～駅～商店街～城の間の人の流れや施設の持つポテンシャルを検証するものです。</p> <p>時期は未定。</p>

## 丸亀市官民連携まちづくりの背景と現状

都市計画課  
の取り組み

丸亀市では、2015年から「リノベーションまちづくり」を進めており、2018年には「リノベーションまちづくりのススめ」として大きなまちづくりのコンセプトを策定している。その動きから、株式会社スナックや株式会社HYAKUSHO（都市再生推進法人）の2社のまちづくり会社が設立され、民間を中心としたまちづくりが進んでいる。

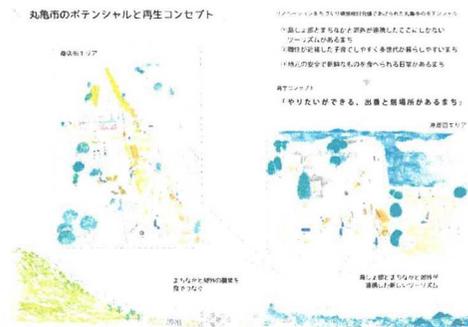
その後も、丸亀駅北エリアにおけるまちのブランディングとして、情報発信サイト「Port Town Marugame」を中心に定期的に情報発信に努めてきている。さらに、2022年には、みなと公園と市道を活用して「丸亀市パークレットを活用した社会実験」を取り組み、JR丸亀駅北側エリア（福島町エリア）における公共空間のあり方を検討する機運がでてきている。

まちなか  
全体の動き

市役所の再整備、市民交流活動センター（マルタス）の供用が開始され、市民会館の整備・指定管理者の選定の段階に入るため、今後、大手町再開発の取り組みも終盤になり、「つくる」フェーズがひと段落し、「つかう」フェーズに入っていく。まちなか全体のOSが揃いつつあり、アップデートを揃えていく段階になっていく。

今後の  
展開

「つくる」から「つかう」へとまちづくりのフェーズが移行していることを踏まえて、民間を中心としたまちづくりを加速化させエリア全体での持続可能なまちづくりを進めるために、官民で機動的なまちづくりを進めるその装置としてのエリアプラットフォームの構築と長期的な方針である未来ビジョンを策定する必要がある。この未来ビジョンは、官民が一体となってまちづくりを進めるための大きな方針になる。また、2022年に実施したみなと公園での社会実験を踏まえて、2025年に解体予定の福島駐車場の跡地活用を一体的に考えると必要があり、この業務の中で、その方向性について検討する必要がある。



「リノベーションまちづくりのススめ」



「2022年社会実験の様子」



「みなと公園および福島駐車場跡地利用検討」